

平成8年産「かけはし」の品質の特徴と品質向上対策

「かけはし」の品質向上のためには、健苗の移植と水管理の適正化による生育・出穂の斉一化、適正栽植密度の確保による穂数・籾数の適正化等、品種特性・生育状況に応じた適切な調整が重要である。

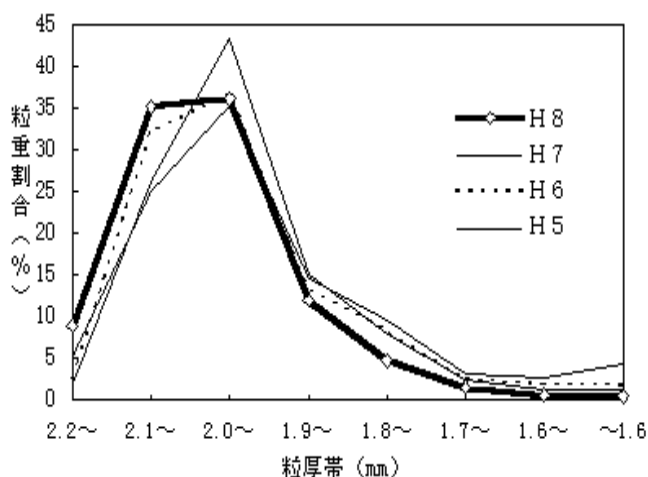


図1 粒厚分布（農試本場：作況かけはし）

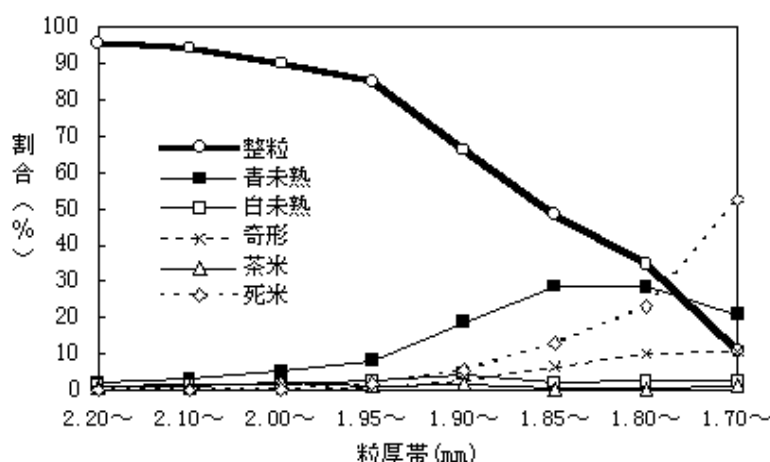


図2 粒厚帯別玄米品質（H8 作況かけはし）

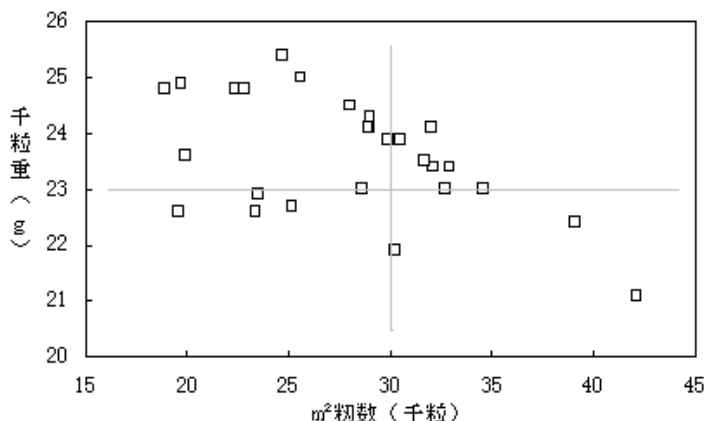


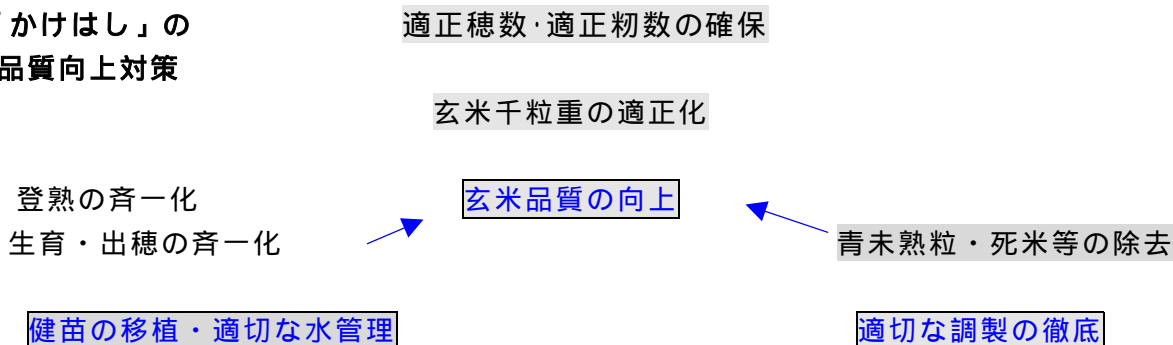
図3 m²籾数と千粒重（H8 診断圃モデル展示圃、1.9mm篩い）

「かけはし」特性上粒厚が厚い品種であるが、平成8年産米は特に厚く、1.9mm以上の玄米が全体の90%以上を占めた(図1)。

粒厚1.95mm以下では、青未熟粒の混入割合が高い(図2)。また、m²籾数30千粒以下では玄米千粒千粒重が24~25gと高くなるため、品質確保のためにはm²当たり30~34gの籾数を確保する必要がある(図3)

栽植密度の確保・適切な肥培管理

図4 「かけはし」の品質向上対策



適正穂数・適正籾数の確保

玄米千粒重の適正化